

Vol.51 September 2011

Shinko Hospital

Medical News

<http://www.shinkohp.or.jp/>

発行:医療法人社団 神鋼会 神鋼病院
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1丁目4-47 電話:078-261-6711(代表) FAX:078-261-6726
発行責任者:病院長 山本正之 編集責任者:神鋼病院広報委員会 委員長 山神和彦

感染症科のご紹介

ごあいさつ

6月より感染症科の常勤医として着任致しました。感染症科のある病院は全国的に非常に少なく、当院でも新設されたばかりです。したがって多くの方にとって「感染症科」とは耳新しい言葉であると思われます。

そこで、「感染症科とは何か、感染症科医はどういう仕事をするのか」についてご説明致します。

感染症科の存在意義

感染症科とは

感染症科とは、感染症の診断と治療を専門とする科であり、感染症科医は感染症のコンサルテーションを受けてチーム医療に参加する医師です。

「存在意義はないのでは?」と思われる方がいらっしゃるかもしれません。例えば、肺炎は呼吸器科が、胆管炎は消化器科が守備範囲としているからです。確かに肺炎や胆管炎など「診断が明白」である場合には存在意義は乏しいかもしれません。

感染症の診断について

しかし、感染症の診断はしばしば困難です。それは感染症の症状は非特

異的なことが多いからです。

例えば肺炎でも胆管炎でも発症初期は熱以外に症状がないことは少なくありません。熱があれば感染症を容易に疑えますが、感染症でも熱が無いこともあります。倦怠感以外に症状がないケースや、意識障害あるいはショック状態で救急搬送されるケースもあります。

このように非特異的な症状しかない場合、特に患者さんの疾患が担当医の守備範囲外であれば診断は困難を極めます。実際のところ、どのような主訴の患者さんに対しても、感染症を鑑別診断として挙げなければならないことがほとんどです。

また、感染症でなくても発熱が主訴となる疾患は無数にあり、そのような疾患に抗菌薬で治療しても治りません。

さらに、感染症は検査だけで診断できるものではありません。詳細な問診や病歴聴取、適切な身体診察が必須なのです。

すなわち、感染症を診断するのも、感染症でないことを診断するのも簡単なことではありません。ここに感染症科の存在意義があるのです。

困難な治療

しかし正しく診断がついた後でも治療が困難なことは少なくありません。例えば「肺炎」の診断でも、細菌性肺炎、ニューモシスチス肺炎、肺結核など様々なものがあります。

感染症の治療は急を要することが多く、微生物検査の結果が出る前に起病菌を想定して抗菌薬治療を開始しなければいけないことがほとんどです(より正確に言えば、微生物検査をオーダーする前に起病菌を想定できていなければ適切な検査も行えないことになります)。



Hiroki Kagawa

PROFILE

神鋼病院 感染症科

医長 香川 大樹

大阪大学 平成13年卒業

日本内科学会認定内科医

・日本内科学会
・日本感染症学会

しかしここで抗菌薬の選択を誤ると患者さんの予後を大きく悪化させてしまいます。

また、抗菌薬には数多くの種類がありますが、「これを出しておけばどんな感染症も治る」という抗菌薬はありません。

もちろん、「これを出しておけば感染症が治る確率が高い」という抗菌薬はありますが、そのような抗菌薬は院内や地域社会に耐性菌が蔓延する原因となるため、使用は必要最低限に留めなければなりません。

適切な治療期間が重要

さらに、適切な抗菌薬を選択できたとしても治療期間が重要です。決して、「解熱するまで」とか「CRPが下がるまで」とか「影が消えるまで」治療すればよいではありません。感染臓器ごとに起病菌ごとに定められた期間があるのです。その期間より短い治療では再発する可能性が高まりますし、それより長い治療では耐性菌を増やしているだけになります。

このように、感染症の治療には微生物や抗菌薬に対する深い知識が必要となります。しかし、専門分化の激しい現代の医学においては、全ての医師がそのような知識を持つこと

は非常に困難です。ここにも感染症科の存在意義があるのです。

感染症診療の重要性

かくいう私は感染症診療が極めて不得手でした。感染症科医が少ない研修医時代(今でも全国的に非常に少ないですが)、感染症診療のロジックを教えてくれる上級医がいなかったからです。受け持ち患者さんが熱を出せば、その度に焦り、がっくりと肩を落としていました。悪性腫瘍や心不全、糖尿病など、感染症以外の疾患の治療のために入院した患者さんが院内で熱を出すのを見るたびに感染症診療の重要さを痛感しました。そこで「感染症診療の勉強をしたい」と思うようになりました。

そうした中、幸運なことに、神戸大学医学部感染症内科教授に着任されたばかりの岩田健太郎先生の研修を受けられるチャンスが巡ってきました。非常に厳しい研修でしたが、眼から鱗が落ちるような経験が数多くあり、大変勉強になりました。

チーム医療

神鋼病院はその研修後初めて勤務する病院になります。

感染症で入院された患者さんはもちろんですが、感染症以外の疾患で入院された患者さんが感染症に罹患した場合でも、早期に診断的確定に治療するお手伝いをすることで、主治医の先生や患者さんが安心して入院の契



機となった疾患の治療に専念できるようにサポートして参りたいと思います。

未熟な点は多々ありますが、日々研鑽に励み、全てのスタッフと協力しながらチーム医療に貢献することで、一人でも多くの患者さんが笑顔になるお手伝いができればと考えています。

さいごに

適切な感染症診療は一人の医師、一つの病院だけで出来るものではありません。地域全体の医療機関が適切な感染症に取り組みなければ、先述のように地域に耐性菌が蔓延することになります。

そこで、もしここまでお読み下さった先生がいらっしゃいましたら、一つだけお願いがあります。抗菌薬を開始される「前」に培養検体をご提出頂きたいのです。どの検体を培養に出せばいいのか迷われた場合は「血液培養2セット」をお願い致します。これは私が研修で学んだ一番大切なことです。たったそれだけで救われた患者さんは数多くいらっしゃいました。どうかよろしく願い致します。



兵庫県指定がん診療連携拠点病院の指定を受けました

がん診療統括担当 部長小柴 孝友

■ はじめに

当院では、以前より手術をはじめ化学療法、放射線療法をがん治療の柱とし、がんの集学的治療を行える医療体制を整えてまいりました。そしてこの度、当院は兵庫県知事より「兵庫県指定がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

■ がん診療連携拠点病院とは

「がん診療連携拠点病院」とは、全国どこでも「質の高いがん医療」を提供することを目指して、都道府県による推薦を基に、厚生労働大臣が指定した病院であり、がんに関する診療の体制や設備、情報提供、他の医療機関との連携などについて国が定めた基準を満たした病院で、兵庫県内では14病院が指定を受けております。

それと平行して、兵庫県ではがん医療における地域連携を促進し、更なるがん医療水準の向上を図ることを目的として、国が指定する「がん診療連携拠点病院」に加え、各圏域においてがん診療連携を推進する医療機関を「兵庫県指定がん診療連携拠点病院」として指定することとし、平成22年に3病院、平成23年に当院を含め4病院が指定を受けました。兵庫県指定がん診療連携拠点病院

※1
の主な指定要件は以下のよう
になっております。

■ 本院におけるがん診療の取り組み

本院では、放射線治療、化学療法センター、無菌室等を順次設置し、がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、肺がんCT検診認定医、緩和ケア専任医師、化学療法専任医師、がん看護専門看護師、がん化学療法認定薬剤師など様々な分野でのがんのエキスパートを配置しがん診療の充実を図ってまいりました。

その結果、県のみならず国の定めるがん診療連携拠点病院の要件もほぼ達成するに至りました。

特に年間入院がん患者数は約2,500人と国の指定基準(1,200人)を大きく上回っており、がん診療連携拠点病院にふさわしい診療実績を供えていると自負しております。



現在、当院ではがん治療の充実に加え、がん相談支援室の機能充実、緩和ケア体制の再整備、がん連携クリニックパス導入に関するワーキンググループを立ち上げ、上質ながん診療を提供すべく診療体制の充実を図る取り組みを行っております。

■ 最後に

がん治療は日々進歩、変化しております。そうした中でがん診療連携拠点病院にふさわしい病院である続けるよう、最新の情報を絶えずup dateしてゆき、質の高いがん診療を提供すべく努力していく所存であります。

先生方には地域連携を通じ、今後ともご支援、御指導のほど宜しくお願い申し上げます。

兵庫県指定がん診療連携拠点病院の主な指定要件 ※1

- 5大がん（胃・肺・大腸・乳・肝）について、集学的治療（手術、放射線、化学療法）及び緩和ケアを提供する体制を有すること
- リニアックなど放射線治療に関する機器を設置
- 放射線診断・治療に関する専門的知識を有する医師を1人以上配置するか、又は他の医療機関から協力を得られる体制を確保すること
- 年間入院がん患者数が500人以上であること

地域医療連携室からのお知らせ

神鋼病院ではこれまで、他の医療機関での治療が必要な患者さんの転院については、公設救急車にお願いせざるを得ないケースもありました。救急隊の出動件数が増加の一途を辿っている中で、自院で対応できればと心苦しく思っていました。

今般、待望の救急車を購入したことで、スムーズな転院ができるようになり、患者サービスの向上が図られるとともに、少しでも救急隊の方々の負担軽減を図ることができればと考えております。



AMBULANCE

当面の間、運行時間は平日の9時～17時と限られてはおりますが、今後の状況も見ながら運用を検討してまいりますので、皆様のご理解とご支援を宜しくお願い致します。

地域医療連携室長 新村 典生

第2回

神戸難治性疼痛症例検討会

■日 時:2011年9月14日(水)
19:30～21:00

■場 所:神戸東急イン3階『ボールルーム』
(神戸市中央区雲井通6-1-5 078-291-0109)

■講演内容

1. 症例検討会

司会:神戸赤十字病院心療内科村上 典子

2. ミニレクチャー

『治らない患者といかにつきあうか』

講師:関西医科大学附属枚方病院

心療内科学講座助教 水野 泰行 先生

- ・参加費500円、日整会教育研修会受講料:1,000円(当日受付にて)
- ・日本整形外科学会教育研修単位1単位(5.骨・軟部腫瘍14.医療倫理・医療安全・医療制度等)あるいは運動器リハビリテーション医資格継続単位認定
- ・当日は情報交換会を御用意しております

第6回神鋼病院リウマチ懇話会

■日 時:2011年9月15日(木)19:00～20:40

■場 所:神鋼病院3階『講堂』(神戸市中央区脇浜町1-4-47 078-261-6711)

■講演内容

1. 症例検討会 座長:神鋼病院膠原病リウマチ科 科長 辻 剛

2. 特別講演 『関節リウマチにおける生物学的製剤と滑膜治療』

演者:東京女子医科大学東医療センター 整形外科・リウマチ科准教授 神戸 克明 先生

座長:神鋼病院整形外科 科長 武富 雅則

- ・日本整形外科学会教育研修単位1単位 (別途1,000円徴収させていただきます) *専門医資格継続単位1単位(01整形外科基礎科学、06リウマチ性疾患・感染症)又は、リウマチ医資格継続単位1単位
- ・日本リウマチ学会単位1単位 (別途1,000円徴収させていただきます) ・日本医師会生涯教育講座単位申請中

神戸循環器疾患勉強会

■日 時:2011年9月16日(金)19:00～20:30

■場 所:神鋼病院3階『講堂』(神戸市中央区脇浜町1-4-47 078-261-6711)

■特別講演:『大学病院と市中病院、それぞれにおける臨床研究』～施設の特徴に見合った情報発信～

演者:神戸市立医療センター中央市民病院 循環器内科部長 古川 裕 先生

座長:神鋼病院循環器内科 部長 岩橋 正典

- ・日本医師会生涯教育1.5単位を申請しております
- ・軽食をご用意しております

■ 神鋼病院理念

地域医療に貢献し、
信頼される病院を目指します。

■ 基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した医療を実践します。
3. より良い医療を提供するために、常に学・技の研鑽に励みます。
4. 全ての領域における医療安全に最大限の注意を払います。
5. 快適で清潔な医療環境の構築に努力します。